静岡大学附属図書館報

図書館通信　—64—

1983. 6

耐震補強工事に伴う臨時休館のお知らせ

—その期間中の措置について—

予想される東海地震の地震防災対策強化地域内にある本学では、既設の2階建以上の鉄筋コンクリート造りの建物について、耐震補強基準による診断が行われ、その必要のある建物に対して、順次補強工事が施されていることはご存知のとおりですが、附属図書館では、昭和58年度に実施されることが決まりました。

工事の性格上、図書館内部の各所に耐震壁が取り付けられ、それに伴って部分的な模様替え工事や仕上げ工事が付帯し、全体の工事期間は7月下旬から12月末まで予定されています。

そこで、この期間中、図書館機能を可能な限り維持し、利用される方々への影響を最小限にとどめるために、騒音やほこりのでる軀体工事の期間を臨時休館にして、後に記すような措置をとることにしました。そして、それ以外の期間は、利用者の安全をはかりながら利用と工事を併行して行うことにしましたが、この期間中における利用も、出入口の制約や一時的な休館・夜間の開館時間のカット等、工事の進捗状況によって利用者にご不便をおかけすることが予想されますので、何とぞご協力くださいますようお願いします。

臨時休館中の措置は次のとおりです。

臨時休館期間：7月15日(金)～9月7日(水)
臨時図書館事務室：教養部L棟2階
（7月21日～9月7日）

閲覧・参考調査等についての臨時措置

〈学生〉

1　休館期間中、本館内の図書及び雑誌の閲覧・貸出はすべて中止します。従って、この期間中に必要とする図書は、長期貸出制度を利用するよう留意して下さい。

本年度の長期貸出の手続期間は次のとおりです。

貸出：7月1日(金)～7月14日(木)
返却：9月8日(木)～9月19日(月)

2　参考図書のうち、卒論作成の資料用の書誌類や大型辞事典類のうちおもなものは、臨時事務室に運んでありますので、教養部L棟で閲覧し、文献複写することができます。

3　レファレンスは、主な書誌、文献の紹介程度について行います。

4　学外への文献複写及び相互貸借の依頼は受付けます。

〈教職員及び大学院学生〉

1　書庫内検索は、工事事情の許す限り職員が同行して行うことができます。職員の同行は、書庫内の図書の位置が一部変更されていることと、利用者の安全をはかるために行うものです。

（次ページにつづく）

もくじ

オンライン文献情報検索サービスの開始について……2
〈私のすすめたい本〉
●学生生活と現代世界史認識……4
●不透視の時代だからこそ……5
お知らせ……6

2　本館に集中された自然科学系の外国雑誌のうち、分野ごとに申出のあったバックナンバー（タイトル名とバックナンバーの巻号については、臨時事務室に問い合わせて下さい）及び全タイトルの1982年度分と新着誌は、臨時事務室に運んでありますので、教養部L棟で閲覧することができます。

3　DIALOGとJOISのオンライン情報検索は、臨時事務室で行います。

4　文献複写及びマイクロリーダプリンターは、臨時事務室で使用することができます。

5　その他、上記学生の利用上の臨時措置2～4については、教職員も同様です。

附属図書館（本館）における オンライン文献情報検索サービスの開始についての お知らせ

学術研究活動の場で先導的な独創的研究をすすめるためには、過去及び現在の関連分野の研究の現状と動向を常に迅速に的確に把握しておく必要のあることは申すまでもありません。

附属図書館（本館）では、教官の方々の研究遂行に役立つことを願って、昭和58年6月1日から、N－1ネットワーク（東大大型計算機センター）、DIALOG（米国ダイヤローグインフォメーションサービス社）、JOIS（日本科学技術情報センター）の情報検索サービスを開始することになりました。ここに、その取扱要項とサービスの対象となるデータベース等についてお知らせします。利用の申し込みは参考調査係で受付けておりますので、大いに活用して下さい。

I. 情報検索の取扱要項

（昭和58年5月6日図書館委員会承認）

（趣旨）

1．この要項は、オンライン情報検索システム（以下「情報検索」という。）を本館において利用する場合の取扱いに関し、必要な事項を定めるものとする。

（利用の範囲）

2．情報検索の利用は、利用料金を校費の移算により支払う場合に限るものとする。

（利用の手続き）

3．情報検索を利用しようとする者は、別紙様式による情報検索利用申込書に所定の事項を記入し、附属図書館閲覧課参考調査係に提出するものとする。

（利用時間）

4．情報検索を利用できる時間は、別表1に定めるとおりとする。

（利用料金）

5．利用料金は、それぞれ別表2に定めるとおりとし、その移算手続は、半年ごとに附属図書館整理課総務係において行うものとする。

6．この要項は、昭和58年6月1日から施行する。

別表1　利用時間

システム	利用時間
N－1ネットワーク	月曜日～金曜日 9：30～17：00 土曜日 9：30～12：00
DIALOG	月曜日 14：00～17：00 火曜日～金曜日 9：00～12：00 14：00～17：00 土曜日 9：00～10：00
JOIS	月曜日～金曜日 9：00～17：00

注：利用できる期間は、当分の間N－1ネットワークを除き、毎年4月1日から翌年2月末日までとする。

別表2　利用料金

システム	利用料金
N－1ネットワーク	東京大学大型計算機センター及び静岡大学東部地区電子計算機運営委員会によって定められた料金を合算した額
DIALOG	ダイヤローグインフオメーションサービス㈱が定めたデータベース使用料金に通信回線料金及び取扱業者の手数料を合算した額
JOIS	日本科学技術情報センターが定めたオンライン料金及び電話使用料金を合算した額

II. 情報検索の利用方法

情報検索の利用を希望されます場合には、閲覧課参考調査係に備え付けてあります「情報検索利用申込書」(取扱要項3)と「文献検索シート」(右欄に用紙)に必要事項を記入し、窓口に提出して下さい。申込書はN－1ネットワーク用、DIALOG用、JOIS用の3種類に分かれております。

申込みに際しては、利用料金の効率化をはかるために、あらかじめ次のような点について留意しておく必要があります。

① 検索テーマをできるだけ具体的にわかるように準備する。

② 検索テーマに基づく適切なキーワード(和文・英文)を複数で準備する。

③ データベースがすでにわかっているときには、それを指示していただければよろしいが、明確でない場合には、参考調査係に各種データベース一覧が備え付けてありますので、参考調査係の職員との打ち合わせによって、システムやデータベースを選定します。

III. システム及びデータベースの概要と利用料金

N－1ネットワークとは一般的に、大学間ネットワークをいうのですが、このたび静岡大学の東部地区電子計算機と東大大型計算機センターがDDX(電電公社新データ網)で結ばれ、東大とつながる端末機(ディスプレイ付)が図書館に備え付けられていますので、東大大型計算機センターで検索できる文献情報を主としたデータベースについてサービスを受けることができます。また筑波大学学術情報処理センターのデータベース検索のサービスも受けられるよう目下手続き中であり、さらに他の機関とのサービス拡充も計画しています。

各システムについての利用料金は別表2に示すとおりですが、N－1ネットワークの東大大型計算機センターのCAS(Chemical Abstracts Search)については、使用料金をセンターと利用者とで半額ずつ負担することになっていますので割安に利用することができます。

各システムのデータベースのごく一部についてご参考までに紹介しますと次のようなものがあります。

N－1ネットワーク (東大大型計算機センター)(例)

データベース名	主題分野	収録期間
CAS	化学全般	1977～
XDC	結晶学	1935～
IEE	計算機制御	1980～
ENG	工学全般	1981～
ULP	学術雑誌総合目録	1980現在

DIALOG (例)

ファイル番号	データベース名	主題分野	収録期間
470	BOOKS IN PRINT	米国の図書出版情報	過去2年分
7	SOCIAL SCISEARCH	社会科学全般	1972～
5・55	BIOSIS PREVIEWS	生物学全般	1969～
308～311 320	CA SEARCH	化学・化学工学	1967～
62	SPIN	物理学	1975～
58	GEOARCHIVE	地学・地質学	1969～
1	ERIC	教育学	1966～
39	HISTORICAL ABSTRACTS	歴史学	1973～
150	LEGAL RESOURCE INDEX	法律	1980～
71	MLA BIBLIOGRAPHY	現代語・言語学	1970～
57	PHILOSOPHER'S INDEX	哲学	1940～
37	SOCIOLOGICAL ABSTRACTS	社会学	1963～
93	U.S. POLITICAL SCIENCE DOCUMENTS	政治・行政	1975～
90	ECONOMICS ABSTRACTS INTERNATIONAL	経済学	1974～
111	NATIONAL NEWSPAPER INDEX	米国新聞索引	1979～
10・110	AGRICOLA	農学全般	1970～
50	CAB ABSTRACTS	農学全般	1972～
151	HEALTH PLANNING AND ADMINISTRATION	健康管理	1975～
152・153・154	MEDLINE	生物・医学	1966～
11	PSYCINFO	心理学	1967～

JOIS (例)

ファイル	データベース名	主題分野	収録期間
文献ファイル	JICST 科学技術文献ファイル	理工学全般	1975年4月～
	CA SEARCH 化学文献ファイル	化学・化学工業	1977年1月～
研究情報ファイル	JICST 科学技術研究情報ファイル	理工学全報	1976年～
	SSIE 研究情報ファイル	理工学・社会科学	1980年～

文献検索シート

申込日	19 年 月 日	検索予定	19 年 月 日	受付No.	
氏名		所属		身分	
目的				代理人	

検索テーマ(文章で、できるだけ詳しく、具体的に記入してください。)

キーワード(和文)	(英文)	(同義語)	(検索語)
1)			
2)			
3)			
4)			
5)			

検索式

制限事項	使用言語	○無 ○英語のみ ○その他 ( )		
	検索年代	○無 ○19 年～19 年	研究ピーク年代	19 年～19 年
	出版形態	○無 ○雑誌論文 ○図書 ○その他 ( )		
出力	項目指定	○全項目 ○抄録を除く ○その他 ( )		
	出力形態			

使用SYSTEM

使用DATABASE

既知文献(著者、論文名、誌名、巻、号、ページ、刊年)

〈私のすすめたい本・46〉

学生生活と現代世界史認識

深　山　正　光

いうまでもないことだが、教師の仕事は子どもや青年の学習と発達に教育をとおして責任を負うことである。だから未来をつくりだす教育の仕事にとって、今日の日本と世界の政治、経済、文化がどういう状況にあるのか、またその将来の発展をどうみとおすのか、という現代世界史認識の課題を教師の視野とその教育生活から欠落させるわけにはいかない。

また、別の考え方をすれば、現代世界史認識の課題は、教師になろうとするかどうか、あるいは現に教師であるかどうかにかかわりなく、いかなる種類の職業人であっても、国民の一人としてかかえなければならない課題でもある。自分の仕事にとって「世界の動き」は直接に関係するわけではないし、日々の生活や仕事に追われてもいるので、そこのところは政治家や企業家にまかせておくというわけにはいかない。つい40年ほど前に大変な「授業料」を支払わされてしまった日本国民の最大の教訓は、世界の中でどのように生き、現代をどのようにつくっていくかという課題を国民の一人びとりが負わなければならない。ということであった。

ところで、この現代世界史認識の課題は、その認識対象の内容が恐しいばかりに広いだけでなく、当然のことながらその認識方法が鋭く問われるという問題を内に含んでおり、しかも、一方ではいわゆる専門家による多面的な研究の成果や発言が量的に多くなってきているだけでなく、他方ではもう日常的に「世界のうごき」をめぐるニュースが、その量的普及の点では世界一といってよい新聞やテレビで報道されるということもあって、世界のうごきを統一的に主体的にとらえるという課題をやっかいなものにしている。だが、主体的に現代を生き、現代をつくるためには、いかにやっかいであろうと、この課題を避けてとおるわけにはいかない。

私自身の勉強の経験に即していうほかはないが、非同盟運動を抜きにして戦後の世界史の発展を語ることができないだけでなく、それが今日の世界史を動かすいっそう大きな力となってきていることを整理された形で学んだのが、*土生長穂著『戦後世界政治と非同盟』（大月書店刊）である。この本は、第二次大戦後における非同盟運動の歩みを、必要な資料を加えつつ整然と記録することによって、それが抑圧のなかから人間らしく生きることを求めて立ちあがった発展途上国人民の切実な要求を原動力として推進され、その力こそが人権の尊重、民族の独立と自決、世界の平和を求めて止まない時代精神の具現であり、その普遍的な大義のゆえに全世界の正義と公正を求める諸勢力と固く団結して、人類の未来をきりひらくたたかいを発展させつつあることを万人の前に明らかにしている。

非同盟諸国の首脳はさまざまの意見の相異や社会体制の違いを超えて、軍事ブロック反対、反帝・反植民地主義、平和と民族自決権の擁護、新国際経済秩序の確立という基本課題を共通に確認するとともに、「核兵器の時代における軍縮、生存、共存」のためのさし迫った課題をかかげている。*平和運動30年記念委員会編シンポジウム『核時代と世界平和』（大月書店刊）は、80年代に入って核戦争の危機がいっそう深まっている「現実の情勢」に真正面から切りこみ、その背景と本質に迫るとともに、「人類史の現段階と恒久平和の理念」、「今日の社会主義と平和の問題」、「核兵器開発の進展と核戦争の危険」、「世界平和における非同盟運動の役割と国際連合」、「防衛二法改定と自衛隊の軍隊化」、「日本の軍事費と軍需産業の現状」、「核軍縮と安全保障」といった基本的、原理的問題を追求している。

これらの追求はいずれも70年代の戦争と平和の問題の基本にかかわる重大な事態・諸変化の分析に立っている。非同盟運動のイニシァチブによる新国際経済秩序の確立にむけての新たな前進の開始も画期的変化であり、「諸国家の経済権利義務憲章」（74年・国連）の深い理解が要請されるところだが、資源をめぐる国際的な諸関係を包括的に分析している*M・タンザー著『資源戦争』（大月書店刊）、多国籍企業とくにその規制と国有化をめぐる問題点を世界史的に整理した*儀我壮一郎著『多国籍企業』（青木書店刊）などは、80年代世界の動態への日本国民の正しい認識を助けるものである。　（教育学部・教育学）

（*印は本館で所蔵）

不透視の時代だからこそ

居城　弘

いまから10年ほど前、僕が静大に来てまもなくであるが、同じテーマで執筆を依頼された。その時はたしか、「国際通貨体制の危機」に関連した文献を挙げて、学生諸君にすすめたことを記憶している。当時の最大の問題、戦後の世界経済における、貨幣・金融システムの根幹・ＩＭＦ体制の二本の柱、金ドル交換と固定為替相場制が、名実ともに崩壊するという大事件が勃発したからである。戦後の世界的な高度成長がすでにそのピークを極め、限界に直面したことのあらわれでもあった。そして、折からの「石油危機」とも重なり合って、世界経済は、破局的なインフレーションと不況とが、同時に進行する時代へと進んでいったのである。

あれからほぼ10年。このかん、事態はより一層の悪化をしめしている、というほかはない。世界的な不況の深化と長期化は、大量の失業者を生み出し、若年労働者の就職難はどこでも大きな社会不安を醸成するようになっている。かつて、「資本主義は、失業と不況を克服することが可能になった」とする議論がもてはやされたが、現実が雄弁に語っているように、「資本主義は変わった」のではなかった。それどころか、資本主義はいまや、前世紀末と1930年代に次ぐ、史上三度目の、世界的規模での危機の時代を迎えている、としてもけっして過言ではない。過去の二度の危機が、どのような方向で「克服」されたかは、歴史が教えている通りである。では、今回はどうか。そのシグナルはすでに出ている。レーガン，サッチャー主義がその「壮大な実験」を試みているからである。これに関してはもっと詳しくのべなければならないだろうが、たんてきには、その基本内容は、いわゆる「福祉国家」理念の放棄である、といってよかろう。わが国においてこの「実験」がどのように進行しつつあるかは、周知のところである。

こういう時代だからこそ、経済学はその真価が問われているのである。ところで現実は、経済学にたいする期待と不信が奇妙に混在していて、学生諸君も何とはなしに、そうした気分から影響を受けているらしい。資本主義の可能性を「保証」し、こんにちまでの政策主体の行動を支えてきた理論が、その有効性を喪失するにいたったという現実。かといって、「復古主義」に回帰することのアナクロニズム。他方で、それでは、「批判の学としての経済学」はいよいよその優位性を明白にしてきたのかといえば、それを肯定するにしても、しないとしても、現代の社会主義のもとでの、さまざまな否定的側面とのあいだでの緊張関係の中におかれているのだ、といわなければなるまい。

今年は、「マルクス没後百年」、「ケインズ生誕百年」にあたり、さまざまな企画や催し、特集記事が組まれている。百年ということに特別の意味があるとも思えないが、資本主義が大きな曲り角、転換点にさしかかっているいまこそ、「資本主義とは何か」を明確にすること、「資本主義像の再構築」の必要性が痛感されるのである。かつて、経済学の巨匠たちは、すべてがこの大問題と取り組んだのである。僕は、この機会に、おそらくは現代の学生諸君にとって、もっとも受け容れ難い提案であることを十分に知りつつ、そうであるからこそあえて、経済学の巨匠たちの苦闘の産物である古典そのものと取り組むことを提案する。このことを避けて通り、ひたすら易きにつく限りは、「制度化」された「理論」のたんなる受容者にとどまるしかないことを、知るべきである。ここでは、古典を読み進むにさいしての良き伴侶といういみで、以下の二著を挙げることにしよう。

*久留間鮫造編『マルクス経済学レキシコン』(全13巻　大月書店)

*宮崎義一著　『近代経済学の史的展開』(有斐閣)　(人文学部・財政金融)

(*印は本館で所蔵)

■教官著作寄贈図書

鎌田哲宏（教養部）

「社会諸階層と現代家族―重化学工業都市における労働者階級の状態１―」鎌田とし子、鎌田哲宏共著　御茶の水書房　1983 (361.4/ka31)

■図書館委員会委員名簿（昭和58年度）

図書館長	細井寅三	
分館長	大月卓郎	
人文学部	居城　弘	日野資純
教育学部	斉藤千代子	深山正光
理学部	立畠　章	橋爪裕司
工学部	片桐孝夫	
農学部	伊藤忠夫	西垣定次郎
教養部	大野　武	上村大輔
電子研	畑中義式	山口十六夫
電子科研	渡辺健蔵	三浦五郎
法経短大	高橋洋児	
本部	稲葉健治	
図書館	内藤　正	

■図書館業務電算化委員会委員名簿

細井寅三（館　長）	大月卓郎（分館長）
居城　弘（人　文）	堀江雅幸（教　育）
相原惇一（理　学）	伊藤忠夫（農　学）
馬場良和（教　養）	山本　正（法　短）
片桐孝夫（工　学）	宮尾正大（電　研）

■図書館委員会報告

昭和57年度　第8回　S58. 3 .15

議事

1　図書館業務の電算化について検討する図書館業務電算化委員会の設置並びに同委員会要項(案)を承認し、昭和58年4月1日から施行することとした。

2　昭和58年度図書館経費の編成方針について審議し、従来どおりの基本方針により編成することを承認した。

3　その他

(1)　分館長から、浜松分館の増築工事状況について説明があり、今後の運営上、人件費の若干の増について援助願いたい旨の要望があった。

(2)　館長から、第1回国際交流委員会において、本年6月末ごろに来学が予定される、オマハ校附属図書館長よりの文書にかかわる図書館資料の交換等について、図書館委員会で検討することとなったので、今後、国際交流委員会と連絡をとりながら、検討を進めることになる旨の報告があった。

(3)　旧制静岡高校の和漢書リスト(27,000冊)の目録冊子が完成し、本館と分館に備え付けてある旨の報告があった。

昭和58年度　第1回　S58. 5 . 6

議事

1　昭和58年度図書館経費について審議し、従来どおりの基本方針により編成することを確認するとともに、本年度も特別の事情のない限り維持費検討委員会を開催しないことを了承した。

2　昭和59年度概算要求事項について審議し、図書館職員の人員増並びに特別設備費として、集密書架と学術情報システム端末処理装置を要求することを了承した。

3　その他

(1)　昭和58年度図書資料（大型コレクション）収書計画調書について、人文学部4点、教養部2点、法経短大1点の計7点を提出したことを了承した。

(2)　本年度に本館の耐震補強工事を実施することとなり、事務室を教養部L棟に移転すること、躯体工事期間中の7月15日(金)から9月7日(水)までを臨時休館したいこと、及び同期間中、相互利用並びに学外からの文献複写の依頼に応じられない旨の現段階における計画の概要について説明提案があり、了承した。

(3)　図書館業務電算化委員会の委員が決定し、4月27日(木)に第1回の委員会を開催した旨の報告があった。

お知らせ（本館）

◎夏季休業中の長期貸出

貸出冊数：5冊以内
貸出実施期間：7月1日(金)から7月14日(木)まで
返却期間：9月8日(木)から9月19日(月)まで

◎他大学の図書館への紹介

他大学の図書館の資料を使いたい人には、紹介状を発行しています。卒業論文やレポートの作成などにご利用下さい。

希望者は参考調査係の窓口まで。(大学院生は、共通閲覧証を利用して下さい。)

■人事異動

本館・採用（58. 3 . 1付）
　美濃部京子　　整理課整理係
分館・転任（58. 4 . 1付）
　田畑雅庸　豊橋技術大図書課運用係長→浜松分館係長
分館・出向（58. 4 . 1付）
　森　生也　浜松分館係長→名古屋大学文学部図書掛長

■昭和58年度「図書館通信」編集委員

館長　居城　弘（人文）　深山正光（教育）
山本　孝　増井三男　島村敏子　横山芳美

静岡大学附属図書館報「図書館通信」　第14巻第1号（通巻64号）　1983年6月20日発行
発行所　静岡大学附属図書館　静岡市大谷836　TEL（37）1111
印刷所　黒船印刷　静岡市登呂二丁目10－8　TEL（86）0236